

## 卒業式辞—共助の心—

馥郁たる梅の花が咲き誇り、まさに春の訪れを感じさせる今日、御来賓の皆様とともに、久御山高校第28回の卒業式を、盛大に挙行できますことは、大きな喜びであり、誠に感謝に耐えないところであります。心から厚くお礼申し上げます。

本日、久御山高校を卒業される273名の皆さん、誠におめでとうございます。

この梅の木のように、皆さんには切られても切られても常にたくましく成長の芽を出し、厳寒の冬を乗り越え、春一番に人格の薫り高い花を咲かせ、花が去っても大きな実を残すような偉大な人間に育てて欲しいと願っています。

卒業式は皆さん一人ひとりにとって将来の夢や希望に胸ふくらませ、自覚と決意を新たに、社会の檜舞台へ力強く、躍り出るための大事なスタートの日です。

そこで未来に羽ばたく皆さんに三点ほどはなむけの言葉を述べておきます。

第一に、努力の人たれということです。

いつの頃からか、努力、勤勉、誠実、勇気といった日本人の美德でもあるこうした善なる言葉があまり使われなくなってしまいました。楽しんで儲けることがもてはやされ、また全ての幸福や価値がお金にあるような拝金主義が社会の底流になりつつあることを大変憂っています。努力や勤勉は力を失ったのでしょうか。そうではありません。

生まれながらにして、何不自由なく全てに恵まれているといった人生は、今やありえません。まさに人生に王道なしです。仕事であれスポーツや芸術であれ、成功している人は、人知れず何倍もの努力を重ねています。この努力を重ねた確かな裏付けや基礎基本があって初めて、技術の完成や人格の陶冶があります。

久御山高校は、スポーツ教育を根幹に—にも二にも努力を根本として、努力は必ず報われると教えてきました。実際努力なくして大成した人はいません。本日閉幕するバンクーバーオリンピックのメダリスト達が、よくそのことを証明しております。幸福とは努力の異名であると肝に銘じて、徹して生涯努力の人であっていただきたいと思っています。

第二に、人生は楽観主義で行けということです。

徳川家康は「人生は重い荷物を持って坂道を登るが如し」と言いました。人生は喜びよりも苦勞の方がはるかに多いのものです。人は困難に直面したとき、多くの人は楽観主義の考え方が望ましいと思いつつも、悲観的になってしまいます。何事もポジティブに考えるか、ネガティブに考えるかによって課題に対する取組が異なってきます。例えばコップに半分ある水を、まだ半分もあると見るか、もう半分しかないと見るかによって意識が全く異なるようなものです。

どのような事にあっても、まだなんとかなるの一点で楽観主義であっていただきたい。

10回や20回の失敗は当たり前、100回ぐらい失敗して初めて諦めるぐらいの度

量が大事です。一昨年のリーマンショックから始まった世界同時不況、日本はまだまだ先行き不透明な世界をさまよっていますが、この不況・就職難のこの年に、大学を卒業した人で53回目の面談で就職を勝ち取った人の手記を読みました。「何度も失敗し、心が折れそうになっても歯を食いしばり、失敗ごとに成長を誓ってやってきた。人生は諦めないことが肝心、最後が大事です。」と訴えていました。「最終勝てば、それまでの苦労は全て勝利だ。」とも記していました。そのとおりだと思います。スポーツで鍛えた久御高生には、「勝ち取る」といった言葉がふさわしいと思っています。久御高生は何事にも負けない、絶対あきらめない大いなる楽観主義者であって欲しいと思います。

第三に、校訓「共助」の心を考えて欲しいということです。

昨年30周年記念事業として整備した同窓の広場の石柱にも、校訓として刻みました。

皆さんと私は、3年前に久御山高校にまいりました。いわば同期の桜です。この3年間共に学び、共に励まし成長してきたと思っています。私は久御山高校には16年ぶりの赴任なのですが、校訓「自学・自律・自鍛」は自らの心身の骨格をつくるには大変素晴らしいけれど、時代の進展を考えると、これからのグローバル社会に対応するためには、何かが足りないと思っていました。熟慮を重ねた結果、新たに共に助け合う「共助」の精神を加えました。互助でなく、共助にしたのは、仏典に「人のために火をともしば、我がまへ明らかなるが如し」とあるように、相手を思いやる心が結果として我が生き方に価値を与え、自らも成長することができる。相手を励ますことが自らを励まし共に前進することができる、まず第一に利他の精神を考えたからです。

さらに、情報や経済の急速な国際化の進展、環境問題・エネルギー問題など地球規模で捉えなくてはならないグローバルな課題を考えたときに、日本がこれからも持続可能な発展をしていくためには、独りよがりではなく誰人とも共に助け合い成長する「共助」の精神が必要です。また、共助の心を育むためには、人間として最も大切な心である、親孝行の心、報恩・感謝の心、相手を慈しむ心、世界的視野で物事を見る心を根底としなければなりません。

この「共助」の精神は学校を卒業し、社会の中で日々暮らす中で、人間としての生き方・在り方を考えたとき、今後ますます大きなウェイトを占めてくるものと思っています。

偉大な人生の歴史は、労苦と敢闘によってのみ創られます。それをどれだけ持つか、が人生の財産であり、生きた証です。ゆえに皆さんが、久御山高校で培った努力・忍耐・勇気と明朗さをもって社会に打って出て、少しでもよりよい明るい社会を構築し、豊かで美しい人生を送っていただくことを心から願っています。

ここで、久御山高校によき歴史と伝統を残してくれた皆さんの代表に感謝の言葉を贈りたいと思います。

まず、3年間無遅刻無欠席を貫いた19名の皆勤賞の皆さん、また3年間全ての教科で完璧な学習成績を収めた11名の成績優秀者の皆さん、サッカー及び剣道等で輝かしい成績を収めた文化・スポーツ賞の21名の皆さん、さらに3年間献身的に生徒会・ボランティア活動をしていただいた3名の特別表彰の皆さん、本当におめでとう。またありがとう。この優秀な実績は、一朝一夕にできたものではなく、日々の努力の、その過程を思うとき、どれだけの苦労があったのか、本当に頭が下がります。皆さんの創られたこの鍛練の姿・蛍雪の心は、本校のよき伝統として今後も継承していきたいと思います。

最後になりましたが、熱心に育てはぐくんでこられた保護者の皆さま、本日は御子弟の御卒業本当におめでとうございます。まだ後期の大学入試という難関を残してはいますが、卒業という節目を迎えた御子弟の姿に感激もひとしおと思います。

3年間本校の教育方針、教育活動に深い御理解をいただき御協力、御援助くださりましたこと、高段からではありますが厚くお礼申し上げます。また、御来賓の皆様には御多忙中、御臨席を賜り、卒業生を激励いただきましたこと、感謝申し上げます。今後とも本校の教育活動に深い御理解をいただき、本校のさらなる発展のために御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。